

日本テレビ通り沿道まちづくり協議会（第13回） 会議録要旨

■日 時：令和5年10月13日（月）18：30～20：30

■場 所：いきいきプラザ一番町地下1階 カスケードホール

■出席者：日本テレビ通り沿道まちづくり協議会 委員 18名（うち1名リモート参加）

二番町町会：2名

四番町町会：1名

五番町町会：1名

六番町町会：2名

麴町三丁目町会：1名

麴町四丁目町会：1名

九段四丁目町会：1名

日本テレビ通り振興会：1名

番町の町並みを守る会：2名

学校法人グロービス経営大学院大学：2名

学校法人女子学院 女子学院中学校・高等学校：1名

学校法人武蔵野大学附属千代田高等学院：1名

学校法人日本大学：1名

日本テレビ放送網株式会社：2名

学識経験者：東京都市大学都市生活学部 明石 達生教授

千代田区環境まちづくり部：加島 津世志まちづくり担当部長

関係者：7名

（事務局）

千代田区環境まちづくり部地域まちづくり課

■傍聴者：92名

■議 事：

（1）日本テレビ通り沿道まちづくりの動向

- ・六番町偶数番地地区地区計画の決定について
- ・五番町地区のまちづくりについて
- ・日本テレビ二番町計画の経緯等について
- ・日本テレビ二番町計画の概要について

（2）意見交換

- ・日本テレビ通り沿道における広場について
- ・日本テレビ通り沿道の街並み景観（低層部）について

■配布資料

- ・次第
- ・席次表【非公開】
- ・委員名簿【非公開】
- ・資料1－1：六番町偶数番地地区地区計画の決定について
- ・資料1－2：五番町地区のまちづくりについて

- ・資料1－3：日本テレビ二番町計画の経緯等について
- ・資料1－4：日本テレビ二番町計画の概要について
- ・資料2－1：日本テレビ通り沿道における広場について
- ・資料2－2：番町の庭・番町の森・新設広場の計画について
- ・資料2－3：日本テレビ通り沿道の街並み景観（低層部）について

■意見交換等

はじめに

～座長から～

- ◇1年の間がありましたから、報告事項も含めてお話がたくさんある。それを進めていきたいと思っているが、その前に、早目に退席される委員さんから御発言があるということで、資料の説明に入ると途中で切れなくなるので、冒頭で申し訳ないですが御発言いただきたい。

(委員)

- ◇都合で、6時50分には退席しなければならないので、先にお話しさせていただき、感謝申し上げます。今回の協議会、2点について問題提起をさせていただきたい。
- ◇1点目が、地域の大方の賛同について。17条に基づく意見書の、最低でも過半数が必要と私どもは認識している。7月25日の都計審議事録の37ページには、「少なくとも地域課題の解決が確実に見込まれ、かつ地域の大方の賛同が得られる場合には、マスタープラン表現からの逸脱も許容されることについて、委員の一致を得ました」となっている。したがって、マスタープランから逸脱するには地域の大方の賛同が必要ということになる。どの程度が大方の賛同か。現状は、地域住民、特に番町地域の住民の過半数は地区計画変更に反対で、地域の大方の賛同をまだ得られていない。ということは、マスタープランからの逸脱は許容されない。さらに、都計審議事録の44ページには、地区計画の高さ制限を80mまで上げる余地について、会長が重要なコメントをしてる。会長は、「それから80メートルというのは所与のものではなく、地域で何か必要だと皆が要望しているものを整備することが前提に立って、初めて60を超えていけると。超えていけるといふか、容積率の緩和があるという前提なので、80が所与なものとは理解できない。」と議事録に残ってる。もともと、80mは新宿通りの高さをもとにしたそうだが、新宿通りは片側3車線。一方、日テレ通りは片側が1車線で、3倍も太い新宿通りは基準にはなり得ない。いずれにせよ、現状ではマスタープランから逸脱するのに必要な住民の大方の賛同なく、また、80mの高さは所与ではないということになる。したがって、日テレさんには60m前提に容積率緩和して建築する準備をしていただきたい。また、再度実施する予定の17条の意見が地域住民から過半数反対の場合には、マスタープランと整合性のある地区計画の範囲で、つまり、60mで開発することが必要だと認識している。地域の大方の賛同があって初めて60mを超えられると思う。
- ◇2つ目が、ちょっと申し上げにくいことで、ゆゆしきことだと思っているが、組織的な賛成票の照査をぜひお願いしたいと思っている。先般の17条に基づく意見書の数は、番町地域の住民では、賛成275に対して反対が658通で、反対が圧倒的多数を占めていた一方で、千代田区内での賛成票が7割と逆転していて、不自然だった。この点に関して、一部メディアでは、日テレさんの会社ぐるみの組織的な動員だったと記載され、衝撃を受けている。当該案件の当事者である日テレさんは、報道や世論調査により、社会に大きな影響を与える会社。そのような会社が自社の不動産開発の利益のために誤った世論調査の不正行為を行っていたならば、放送免許自体に関わるゆゆしき問題だと考えている。この点については、情報公開請求が区に対してなされ、10月25日に情報公開いただく予定。もとのデータを持ち、かつ公正な立場である区役所さん自身が調査をして、詳細な情報を広く示すことを強く要請する。
- ◇私は2点だけ申し上げたが、住民の大方の賛同を得られて初めてマスタープラン逸脱が可能だということが1点目と、もう1点が、公正なプロセスで検証ができる。もしも報道にあったとおりの間違った問題が実際にあったならば、ぜひ区役所でもしっかりと調査、情報公開して御説明いただきたい。

～座長から～

- ◇この場は住民の皆さん方の忌憚のない御意見をいただくところ。資料説明の後で、できるだけ多くの時

間を取って皆さん方から忌憚のない御意見をいただきたい。そういう意味で、御意見出していただいております。

- ◇議事に入っていきたいとが、御説明たくさんあるんですが、それを一気にやる。途中で質疑を入れると時間がなくなってしまうので、最後のほうで御意見をいただきたい。
- ◇最初に、議事次第をどういうふうにまとめていくかという運営について、区さんとも打合せをしてきたんですけれども、私の今の気持ちをお話しさせてもらいたい。
- ◇私のところにもいろいろとお話をしてくださる方がいるので、いろんな、ある種噂話みたいなものも耳に入ってくるということですが、異なる幾つかのところからお聞きしたので、きっと本当かなとも思ったりすることで、それをお聞きして、私自身がすごく懸念しているところがある。
- ◇聞いたお話は、番町の森は、日テレさんが開発に先立って、既に先に広場をつくって、住民の皆さん方にお使いいただくということで提供してくださっているところですが、そこで幾つかのイベントが住民の方々から行われているところでもあります。ところが、住民の皆さんの中には、そこをお借りしてイベントをすることを躊躇するというか、差し控えているというお話をいただいたところもあって、僕はこれを聞いてえっと思ったんです。それというのは、よく考えてみると、番町の町が住民の方々にとって住みにくい場所になっているということの意味していると思うんです。
- ◇コミュニティの分断という言い方はちょっと違うかもしれませんが、住民たちが気遣いなくやるようなイベントがいろいろと、付度という言葉は正しいかわかりませんが、そうしたことを考える人がいると。そういう中で、実際にイベントをそこでやることは取りやめて、ほかでやりましたという話もお聞きしたりしました。これはちょっとまずいなと非常に思ったところです。
- ◇そして、それについてこの協議会も一連のプロセスの中で関係しているというか、私もその座長をやっている、そういう番町を住みにくい場所にしてしまっていることに自分も加担して助長してしまっているとすると、それはとても罪なことだと思いました。
- ◇そういうところになっているとしたことも含めて、今日、1年ぶりに議事をやるんですけれども、その議事をどんな形でやろうかということをお区さんともよく打合せをして決めてきたんですけれども、まずは最初、報告をいただいていくわけですが、議論すべき点というのは、いろいろ、いろんな人たちとお話をしていると、1つは、広場をつくって、広場は、いずれにしても建物を建てるという形で開発をし直しますから、今とは形が変わることは避けられないですね。避けられないけれども、その広場を住民の皆さんにとって使いやすいようにするためにはどうしたらいいかということについて、日テレさんに住民からの要望ということを入れていって、区さんとも相談しながらということが必要ではないかと思えます。
- ◇そうしますと、後ろに席が幾つかあるんですけれども、今ここにおられる方々は広場のユーザーという人たちがあまりいないですね。広場のユーザーの人たちがいないところで広場の使い方を議論するのも不毛になってしまうので、今いろいろなイベントとかも含めてお使いになっている方々に、ここでどんな感じなのか、要望があるのかということをお議論いただきたいと申し上げました。
- ◇何人かの方が来てくださるんですけれども、その中では、来られないという人ももちろんおられました。ここで発言するのはということです。そういう中で説得もしまして、こういう言葉が適切かわかりませんが、多分そうだと思うんですけれども、勇気を出してここへ来てくださっている方々にこれからお話をいただくところがあるかと思えます。
- ◇そんなことで、こういうふうにしてこの会議をセットさせていただいているという経過の報告になります。
- ◇またもう1つ、町並みについて、60mより下のというか、60mですら見上げないと見えないところでもありますけれども、番町を普通に歩いている町並みという景観をこれまであまり議論してきておりませんでした。しかし、今回の日本テレビの建物がどのような建物であれ、結構長い街区を使っていますから、ある意味で町並みに影響力が非常に大きいということです。
- ◇これでもし地区計画をつくってとかいうことになっていきますと、それがリーディングプロジェクトということになって、ルール化していくことになるという意味では、これからの番町に、将来にわたってそれなりに少なからぬ影響を与えていくことになろうかと思えます。それは、地区計画をどうするかと

いうのは区さんの御判断かもしれませんが、やっぱりこの協議会で何も取り上げないで議論もないというのはちょっとまずいだろうとも考えました。

- ◇今日は2点、広場のことと町並みのことを中心に御意見をいただきたいと思っています。もちろん、どんな御意見をいただくのも結構でございますので、これ以外のことで御発言いただいても差し支えは全くないですけれども、意見交換ということでは、このところをお話ししていくことが実りがあるなど考えて、この議事次第をセットしたところです。

(1) 日本テレビ通り沿道まちづくりの動向

・六番町偶数番地地区地区計画の決定について

【事務局より資料1-1について説明】

- ◇左側中央あたりに記載している区域A地区～D地区、地区全体の面積は約5.1ha。図のD地区の右側の道路が日本テレビ通り。
- ◇これまでの経緯として、平成30年3月に住民有志の方々から、当地区の地区計画の案が区に提出され、以降、地権者の方々との意見交換会を開催し、案について検討を重ね、地区計画の素案をまとめたうえで、今年度、都市計画手続きを進めてきた。
- ◇地区計画の内容は、資料1-1に記載のとおり、目標と地区施設及び建築物等の整備方針、建築物等の高さの最高限度等について定めているので、ご確認いただきたい。
- ◇今の状況は、令和5年8月23日の都市計画審議会に付議し、可決され、9月14日に都市計画決定告示、現在、建築条例化に向けた手続きを進めている。

・五番町地区のまちづくりについて

【横山五番町町会長より資料1-2について説明】

- ◇五番町では、令和4年度に五番町町会主催でまちづくり勉強会を開催し、「五番町地区まちづくりの方向性」をとりまとめた。勉強会の開催に先立っては、地区の皆様の約800件にアンケートを配布し、約140件の方々から回答をいただき、地区の魅力や課題に関してのご意見を幅広く頂戴した。それをもとに3回にわたる勉強会を開催し、各回、約20名の皆様との意見交換を重ね、地区の魅力や課題の整理し、五番町地区のまちづくりの方向性（案）を作成した。
- ◇まちづくりの方向性としては、五番町が有する資源や立地特性を活かして、歴史文化・緑が織りなす風格と機能集積によるにぎわいある魅力的なまちづくりを目指すために、「まちの顔となる市ヶ谷駅前の拠点性の強化」「外濠の自然環境を活かしたまちづくり」「安心・安全なまちづくり」「番町の歴史・文化的背景を活かしたまちづくり・街並み形成」「五番町地区の通りの特色を生かした空間形成」の5つの方針を掲げた。ご紹介した「まちづくりの方向性」の内容は地区の皆様が2023年6月に全体説明会を開催し、ご賛同いただいたので、2023年9月に千代田区に提出した。
- ◇今後は、オブザーバーとして千代田区に参加いただく形で、「五番町地区まちづくり検討会」を開催し、勉強会でとりまとめた「五番町地区まちづくりの方向性」を踏まえた基本構想案の作成や実現化方策等について意見交換を実施し、「五番町地区まちづくり基本構想（案）」としてとりまとめる予定。

・日本テレビ二番町計画の経緯等について

【事務局より資料1-3について説明】

- ◇前回の協議会で日本テレビから都市計画提案を行う表明があり、以降は都市計画手続きとして地域の方々への説明会、都市計画素案の縦覧、公聴会の実施、公聴会のご意見を踏まえて修正案へと改めた上でその内容を地域の皆さまへご案内した後、都市計画案の縦覧を行ってきた。
- ◇その上で、今年の3月30日に都市計画審議会へ審議案件としてお諮りし、継続検討すること、また、学識経験者の委員による専門家会議を設置し、専門的な知見が必要な点について意見を伺うことが決定された。
- ◇都市計画審議会で開催を決定された専門家会議を6、7月に開催し、主に都市計画手続き、容積率、建物高さの妥当性、都市マスタープランとの整合性の4点について検討が行われ、計画の再検討を行うに

あたっての方針が示された。

- 1、 新たな案においては都市計画手続きをやり直すこと
- 2、 街区公園規模の広場整備、地下鉄バリアフリー動線を改善すること
- 3、 容積率は詳細を確認した結果、700%は認められること
- 4、 建物高さは60mの街並みに配慮しつつ、最高で80mを超えないこと

以上の内容を踏まえ、資料に示すように区から日本テレビに対して計画の再検討を行うよう要請を行った。

◇その後、9月に3回目の専門家会議を開催し、日本テレビの作成した再検討案は、方向性として専門家会議が提示した内容に沿っていることが確認されたことから、本日その内容を御説明いただく運びとなった。

◇本日は再検討案を確定したのものとしてお知らせするわけではなく、この内容が専門家会議の提示した方針に沿ったものであることを皆さまへお示しし、その上で皆さまからいただいたご意見を踏まえ、区としてより良い計画となるよう精査していく。

◇補足のとして資料4・5ページ目にもあるとおり、日テレ通り沿道の番町地域ではこの20年間で人口が1.5倍に増加していることや、街区公園規模の公園や広場が誘致距離250m圏域でカバーできていない状況がある。千代田区としては日テレ二番町計画の中で、この状況を改善する必要があると考えており、こうした経緯をご理解いただいた上で、専門家会議からも街区公園規模の広場整備が求められたと認識している。

・日本テレビ二番町計画の概要について

【日本テレビ放送網株式会社より資料1-4について説明】

◇千代田区から説明があったとおり、3月30日の都市計画審議会では、言葉を選ばずに申し上げれば、計画に疑義をしめされている委員の方々から「専門家、有識者の方々へ一度揉んでいただく必要がある」「先生方でこの専門的問題点を受け止めていただきながら、どうあることが適切かを調整していただきたい」との提案が出され、学識経験者の委員の先生方を中心とした専門家検討会議が組織された。ここでは計画に対する熱心な検証・調整作業が行われ、学識という立場からご意見をまとめられたと理解している。この提案を踏まえて区からプランに対して5つの修正要請があった。我々はこの専門家の先生方のご努力に敬意を表し、修正要請を真摯に受け止めたい。プランの修正を検討するにあたって、今回貴重な機会を頂きいたので、皆さんにぜひご意見を伺いたい。特に広場の使い方や街並みについてのご意見はこれから新しく作り上げていくものなので、大いに参考にさせていただきたい。

◇7月26日付で千代田区より要請を受けた修正ポイントの5点について、日本テレビとしての考え方をお示しする。本日の協議会の場において、地域の皆様より忌憚のないご意見を頂き、踏まえて以後の再提案の内容としてブラッシュアップして参りたいと。

◇1つ目の要請内容として「街区公園に相当するような広場を整備すること」についてP2に建築面積と広場の関係について複数案を検討している。一番左のaは、昨年都市計画提案した高さ90m以下とするプランの建築面積と広場の関係を図示しており、青空広場で2,500㎡、街区公園規模を確保している。bは、高さ80m以下とするよう受けた要請に対応する為、一部建築面積が広がった事により広場の一部をピロティ化して併せて2,500㎡確保している。なおピロティとは、ビルのエントランスに見られるような屋根付き広場として定義させていただいている。cは、高さ60m近くまで限りなく抑える考え方で、広場の半分程度をピロティ化する事により2,500㎡程度を確保しているもの。注記にも記載致したが、法的に不適合の部分があり、適合させた場合は60mを超えてしまう。

◇2つ目の要請内容として「60mの街並みを尊重し、容積率700%前後としても建築の高さ80m以下とする」についてP3に60mを超える部分の建物の見え方について複数案検討している。aの考え方は、60m以上の部分をセットバック、いわゆるへこませて、日テレ通り対岸の人の目線で見上げた時に60mを超える建物を見えないようにする工夫、考え方。一方bは、60mの高さのラインで上と下のデザインを切り替える事により街並みに配慮する考え方。

◇3つ目の要請内容として「建築物の一階部分と外部空間との関係をより親密なものとする」についてP4に建物の一階部分の動線について複数案検討している。当該計画地を囲む日テレ通り、文人通り、中央通り、女子学院様側の通りの四方の道路とのアクセスや回遊性の向上等、地域の皆様との接点が増え

る事が結果として親密性を高めることになると考えている。従ってcの「出入口の分散」「建物内外を結ぶ動線の拡充」「地域との接点となる路面型の店舗配置」のこれらの考え方が要請に対する答えとして最善ではないかと考えている。

- ◇一階部分の動線の考え方と関連して、低層部の外観デザイン、いわゆるファサードデザインについてP5のaには、日テレ通り沿道の既存のファサードに合わせて建物高さで2階程度の高さである10m程度のラインでデザインを切り替えるイメージを示している。一方b、cは、出入口を複数設ける事による建物内外のアクセス性の向上と合わせて、路面型の店舗配置とし、沿道既存のファサード3階～4階相当の15m～20m程度の高さで基壇や庇を設けることにより高さのラインを区切るとともに、間口を小さなボリュームに分節することにより、地域に開かれた足元空間の実現と、人の目線レベルでの沿道の街並みを形成していく。
- ◇4つ目の要請として「地下鉄駅へのバリアフリー動線を整備する」についてはP6にあるように昨年の都市計画提案時と変更せず高さ80m以下であっても変更実現させることを約束する。その後の各手続きにおける地域の皆様の疑問として、地域の方の動線と、新しくできるオフィスビルのテナント利用者動線が混線するのではないかとという疑問に対し、本日はその部分について、P6左側記載のとおり、麴町駅改札階から地上へのバリアフリー動線を実現する駅前プラザを整備するのと併せて、将来の地域の人口増加に備えた「改札外の地下鉄通路の拡幅と表層部のリニューアル」を実施することにより、地域の悲願でありました麴町駅番町口出口の完全バリアフリー化を実現致したいと考えている。
- ◇地域交通広場の整備については、タクシー乗り場や地域コミュニティバス乗り場を集約する事により、日テレ通りの渋滞緩和を図るとともに、雨にぬれずゆっくりと乗り降りして頂ける交通広場の整備により、身体に障がいをお持ちの方、高齢者や小さなお子様連れの方など、あらゆる方が安心安全に様々な交通モードをご利用できる機能を整備する。併せて、番町中央通りを一部双方向化する事により、後背地の住宅街への車両の流入を防ぐ配慮も合わせて行う。
- ◇最後5つめの要請として「地域防災への取り組みを強化すること」について、当該地はP7の千代田区災害時避難場所案内図の通り、紫色①麴町小学校、みどり色②九段小学校、ピンク色③番町小学校の区域界に位置している。広場、建物低層部、エリアマネジメント施設等の活用や、テナント店舗や既存の日本テレビのスタジオ棟との連携により、公共の避難所の機能・役割を補完する民間施設ならではの「あってよかった」と思ってもらえるような災害時の場を整備していく。具体的な機能としては、右側に記載の通りで、先般の都計審において専門家の先生からもご指摘頂いた通り、マンションが林立する当該エリアの災害時の想定として、断水被害によるトイレ機能の不足等が指摘されている。それらに対応できるように、新設広場を中心として目隠し付きマンホールトイレ等を多数配置する事等を検討している。想定を超える災害が多発する昨今におきまして、公共では対応しきれない機能について引き続き、専門家の皆様の声や地域の皆様の声を集めて計画をブラッシュアップしていく。
- ◇以上5点につき、要請に対する日本テレビの修正の考え方をご説明した。5点に限らず、皆さまの忌憚のないご意見を頂戴出来ればと考えている。

【事務局より補足説明】

- ◇繰り返になるが、専門家会議の取りまとめを踏まえたこの計画が、方向性として専門家会議が提示した内容に沿っていることが確認された。千代田区としては、この案をベースに本日この協議会での意見なども伺いながら、さらにブラッシュアップし、都計審に報告することを考えている。

(2) 意見交換

・日本テレビ通り沿道における広場について

【事務局より資料2-1について説明】

- ◇これから日テレさんの計画により整備される広場について、このような考え方を定めていくにあたって、どんなことを考えていくことがよいか、皆さんと意見交換できればと考えている。はじめに地域で実際に行われた活用内容について資料を掲載しているが、これらを含めた活用状況をまとめた動画を用意し

ましたのでご覧いただきたい。

(ビデオ再生 約4分)

◇続きまして、今ご確認いただいた番町の庭や番町の森と、これから計画しようとしている広場の考え方について、日本テレビ様よりご説明をお願いします。

【日本テレビ放送網株式会社より資料2-2について説明】

◇「番町の庭」は、地域コミュニティの希薄化を危惧した地域・沿道の皆様の声を集めまして、暫定施設として日本テレビ敷地に2015年に開場した広場。面積・機能等は、記載の通りで、地域の皆様にお使いいただく中で、広さや設えのみならず、土や緑や虫など都心環境での子育てにおいて足りていないもの「もっとこうしてほしい」「もっとこうだったらうれしい」といった声を多数いただき、真ん中にある「番町の森」を開設致した。こちらも暫定施設として日本テレビの敷地に2021年に開場した広場。面積・機能は記載の通りで、開場以来日常的に近隣保育園の園庭代わりとして、また地域コミュニティを育むイベント会場として、また伝統的祭事として盆踊りを本年4年ぶりに開催した。2日間で約8,000名の地域住民の方にご利用頂き、2,000㎡の現状でも手狭である事がわかりました。地域の皆様に愛される持続可能な広場とする為、本日協議会の場において新設広場について、是非ご意見を賜り、皆さまと一緒に作り上げていきたい。

【事務局より資料2-1に関連して関係者のご紹介】

◇動画でも御紹介したイベント等で、番町の森などを活用されている方々に御参加をいただいているので、イベントに参加された方々からどのような意見があったかという点であったり、使ってみての御要望というものはどのようなものかということについてお伺いをしたい。

◇初めに、番町SJEというマルシェを通じて知的障がいのある方が就労体験をされたり、マルシェに参加できる環境をつくったり、そこから実際に仕事として成立するものを、継続的に地域の企業と皆さんと一緒につくっていらっしゃる活動を行っている方から御説明いただく。

【関係者1よりSJEマルシェについて説明】

◇私たちは、番町SJEマルシェを過去3回、番町の森で開催させていただいた。やっぱり、コンセプトとしては、福祉という世界が、すごく社会との間に壁が大きいと、そういうところに課題感を抱き、最初のきっかけは〇〇〇さんとの出会ったが、そこから、〇〇〇さんがなかなか社会に出る勇気とか、社会に出るきっかけとか、社会とつながる場所がないというところをすごく課題として認識して。じゃあ、何ができるかなというところで、SJEマルシェというものをつくった。

◇マルシェという、誰もが参加できて、地域の方がいつでも普通に遊びにこられるような場所で、そういう障がいのある方々が仕事をしたりとか、そこで参加して遊んだりとかしている。そういう世界が当たり前だよなというところをつくりたいという思いで、番町SJEマルシェというものを開催して、過去、毎年1,300~1,400名の方に来ていただいて、こういう多様性だったりを理解するイベントになってきている。そういう話もあって、今回は〇〇〇さんにも一言いただいて、皆さんにも自分の意見を話してもらおうと思っているので、〇〇〇さん、お願いします。

【関係者2よりコメント】

◇僕の名前は、〇〇〇です。麴町小学校、千代田小学校、麴町中学校の卒業生で、今、ソーシャルグッドロースターズで働きながら、番町SJEマルシェの実行委員をしています。

【関係者1よりコメント】

◇ありがとうございます。ありがとうね、〇〇〇さんも。そういう形で本当は社会の方がこのエリアにすごく感じる事として、やっぱり地域のつながりとかが少ないなというものはすごく感じてはいて。それを解消する意味も含めですけど、地域の方々とか、障がいがあるないとか、国籍とか関係なく、多様な人たちが集まれる場をつくりたいなという思いで活動している。次回もあるので、そこでもぜひ皆さん、11月18日の土曜日にあるので、足を運んできていただけたら、世界観とか雰囲気とか分かるのかなと思うので、よろしくをお願いします。〇〇〇さんのお母さまもずっとこの地域にいますので一言だけ。

【関係者3よりコメント】

◇息子が千代田区でずっとお世話になっていたのが、恩返しのため5年前まで、千代田区の青少年委

員、都市計画委員、消費生活委員、環境委員などをさせていただいた。息子は麴町小学校の新校舎の卒業生、新しくなった校舎の1期生の卒業生。そのときは2人で特別支援学級が始まって、とても人数が少ない地域。小学校はこちらの地域に特別支援学級がないので、神田にある千代田小学校に通っていた。なので、こちらの麴町番町の地域で、ハンディキャップの方に触れ合う機会がとても少ないと感じている。

- ◇3年前に、法政大学の方からダウン症の人と会ったことがないので学びたいということで連絡があり、勉強会をして、その後、マルシェにボランティアとして参加してもらうようになった。あと、大妻女子大とか、聖心女子大とか、大学生や地域の方たちに参加してもらっている。マルシェは誰でも参加できるということで、気軽にハンディキャップの人と触れ合うことがない方たちも自然と触れ合うことができる場になっている。それで、地域の方、最近ではニップンさんとか、カルビーさん、あとは病院、シャーロットこども発達クリニックさんという近所にある病院の先生などに御協力いただき、開催させていただいている。
- ◇一番感じたのは、この場所で開催してみて、都心のど真ん中にあるのにバリアフリー化ができていないということが問題だと思っている。息子の仲間が車椅子で2人参加したのだが、麴町駅はエレベーターがなく、新宿通りのほうから階段、坂道を下って上って来るといって、とても大変なことだった。お手洗いやはりないので、いきいきプラザをお借りして、車椅子の方をサポートさせていただいた。
- ◇あと、私、この近くで野菜の販売をやっており、20年近く野菜の販売をしているので、皆さんの、いろんな高齢者の方の声も聞こえてくるが、やはり、階段を上るよりも下りるほうが大変だということで、麴町地域のバリアフリー化、エレベーターがないのは本当に大変だという声をたくさん聞いている。なので、ここだけではなく、町全体がもう少しやさしいバリアフリー化がされるといいなと思うことと、あと、私たちこのマルシェを開催して、本当皆さんが次も参加したいという声をたくさんいただいているので、どんどん広がって、また大きい場所になっていくといいなと思っている。

【関係者1よりコメント】

- ◇ぜひ、11月、マルシェ開催するので、足を運んでいただきたい。雰囲気とか、地域のつながりとか、こういう世界観、世界観を大事にしているので、世界観を味わっていただけたらなと思っている。

【事務局より資料2-1に関連して関係者のご紹介】

- ◇Beautiful Mother Parkという「少子社会対策子育て支援」と「女性の活躍推進」をテーマに、ママとキッズをターゲットにしたファミリーイベント活動を行っていらっしゃる方より御説明をいただきたい。

【関係者4よりBeautiful Mother Parkについて説明】

- ◇私どもは、ライフワークとして開催地域の行政、子育て支援課の後援などをいただいて、地域密着型のファミリーで参加するイベントを開催している。子育てママとファミリーをターゲットにしており、何よりファミリー、女性がハッピーになるようなイベントを運営している。
- ◇イベントについて簡単に御説明させていただく。2016年よりこういったイベントを開催し、2019年より「ママと取り組むSDGs」をテーマに、ママのプチ起業を応援する子育て支援と女性活躍推進をイベントのコンセプトとして、過去11回、総動員数は約45万人のファミリーイベントを開催している。また、国連にも御協力いただいている。
- ◇来場客数は、ライフスタイルを大事にする子育てママたちが中心なので、保険、住宅関係、安全な食品、美容、電動自転車、自動車、電力などの企業様やママブース様の御参加で成り立っている。出展ブースにて、試飲、試食、アンケートやサンプリング、ワークショップ体験などを実施させていただいている。地域密着型ですので、「地元ならではの」にこだわり、そういった方々の御出展をいただいている。
- ◇来場のお子様の年齢層としては、ゼロ歳31%、1歳25%、2歳20%、3歳10%。また、親御様やおじいちゃんたち、おばあちゃんたち、またママのお友達の方々に御来場いただいている。ステージでは、大人気のハイハイレース——赤ちゃんがハイハイするレースやキャラクターショーを実施している。
- ◇今年、番町の森で、6月17、18日に、千代田区、東京都後援の下、また千代田区、また樋口区長、番町の森の方々の御協力もあり、開催させていただいた。番町の森では、2日間で約1,800人の方に御来場いただいて、その後も、次回開催はいつかというお問合せも多数いただいている。私自身、千代田区が地元ですので、多くの子育て世代がお住まいのことは知っていたが、思っていた以上の御参加で、こうい

った子育てイベントへの興味関心の高さが見えたと思っている。

- ◇私たちが、番町の森で地域にとってとても大切だと実感したことは、定期的に行うイベントもそうだが、今回のイベントのために、下見のために何度も広場に足を運んだ際に、いつも子供たちが広場の中で思い切り駆け回って、元気な声でお友だち同士で名前を呼び合って笑顔で遊ぶ姿や、小さなお子様たち同士で戯れ、外国と日本の子供たちとそのママさんたちの姿が印象的で、ほほ笑ましい光景だった。どちらも今の東京に必要なかつとても豊かな光景に感じ、番町の森で子育て支援と女性活躍推進イベントをさらにさせていただくことを心から光榮に思っている。
- ◇子育て世帯収入1番の千代田区だからこそ、子供たちやママたちになじみのある番町の森のような社会に貢献できるマルシェや子育て支援イベントなどが身近に開催できる広場が大変必要だと実感している。
- ◇過去のイベントで、2日間で最大5万人のイベントや、敷地の広さで言うと新幹線駅ターミナルや代々木公園でも開催したが、今回私たちが最もうれしい悲鳴を上げたのが、ハイハイレース、赤ちゃんがハイハイする、とRODYレースの募集の多さが、何と過去一番多く、ステージ上での開催回数を今までの倍近くに増やした事。急遽SNSの担当スタッフを倍に増やしたが、問合せ、レースの応募がかなり殺到した。ハイハイできる年齢が大体限られるが、立つ前ということなので1歳半前ぐらいにレースに参加にできる年齢は限られているし、何より、家族の思い出だけでなく、みんなが笑顔になる光景を目の当たりにしているので、スタッフには本当に申し訳なかったが、全力で対応させていただいた。しかし、正直なことを言うと、安全上の観点だと、もう少しベビーカーとかバギーの置場があったらもっと安全かなとか、普段もしかしたらそうじゃないかなという思いは正直あった。本当は10月にハロウィンイベント開催を考えていましたが、夏の時点で、コロナとかインフルエンザの感染が確認できていたし、それによって10月の運動会などの行事が延期などあると見込んで、また、ファミリーイベントなので、こういった対策のことも考えて、今年は見送らせていただいた。本当に残念。しかし、季節によって、季節を感じられるイベントも今後は開催させていただきたいと思っている。
- ◇私たちは、率直な感想としては、反響も含めて、思っていた以上に千代田区の方々、近隣の区の方々も、こういったファミリーイベントを求めている感触があった。

【事務局より資料2-1に関連して関係者のご紹介】

番町たき火フェスというイベントを主催されていらっしゃる方からお話しいただきたいと思う。

【関係者5より番町たき火フェスについて説明】

- ◇「千代田こどもの芸術祭」というものを主催しており、日テレさんの番町とか、神田、秋葉原、日比谷の千代田区内にある場所ですとか建物と子供たちの活動、創造性、芸術団体等をつないで、子供たちのために、子供たちが主役になる、そしてみんなが楽しくなる、そんな場をプロデュースしてきている。
- ◇そんな中、日テレさんの番町の森で何かできないかなと考えたときに、「高尾の森自然学校協力の元」と書いてあるが、高尾の森の皆さんとすごく意気投合して、ぜひ高尾の森と番町の森をつなごうと。都会にはない、最近、緑被率とか上がってきてはいるが、やっぱり高尾に比べたら自然体験はできないし、今回のイベントをやっても、やっぱり都会の家族の自然体験とか自然と触れ合いたいという欲求はすごく高いので、ぜひ高尾の森の恵みを番町に届けましょうということで行ったのが、この番町たき火フェスというもの。
- ◇簡単に説明すると、高尾の森から間伐材を大量にトラックいっぱいを持ってきて、それで秘密基地をみんなで作ったりとか、映像で流したようにみんなが薪にして燃やして、焼き芋を焼いたり、マシュマロを焼いたり。その間に音楽だったりとか、地元の子供たちのパフォーマンスだったり、そういったようなことをやらせていただいている。
- ◇非常に反響も大きく、「まさか都会でたき火ができるなんて思ってもみませんでした」「本当にうれしいです、初めてたき火しました」「初めて焼きマシュマロ食べました」などいろいろなお声をいただいでいて、今後も継続していきたいなと思っているイベント。
- ◇広場の利用についてということなので、ちょっと感じていることと要望というのをいくつかお伝えさせていただくと、千代田区内にいろんな広場ある。そういうところと比べて番町の森が圧倒的にすばらしいのは、自由であるということ。普通、このような再開発とかによって「広場が整備されました」と、そこで「何かイベントをやります」というと、いろんなレギュレーションがあって、「何は駄目です」

「これはいいです」というところがあるが、現状の番町の森は本当に自由。自由だけど、日テレさんはじめ非常に協力体制があって、何かを貸していただけたりだとか、非常に柔軟に対応してくださって、こんな広場は本当にないので、そこは本当に、何かをやりたいなと思っている身としては本当にありがたい。なので、その自由さというのにはぜひ失われてほしくないなというふうに思う。

- ◇これから要望につなげていきますと、1つ目、こういった何でもできる可能性があるという、そういった合理的なというか、何でもなれる、なり得るという空間というのをぜひ残しておいていただきたい。それというのは、土があって、緑があって、石とかがごろごろした整備され過ぎてないというところがやっぱり自然との接点という意味でも非常にいいと思っているし、子供という立場で考えると、きれいになり過ぎてるとちょっと入りづらくなる。一方で、やっぱり、木にちょっと登っても怒られないとか、ちょっと石を掘り起こしても怒られないとか、そういった自由さというものはぜひ維持していただきたい。
- ◇2つ目は、広さという、やっぱり走り回ったりだとか、火を起こしても安全上いいなと思える今の広さというのは非常にありがたいので、維持していただきたい。
- ◇次に、屋根の、ちょっとピロティのお話が見受けられたので、できれば、開放的な青空がある方が良い。一部ピロティというお話でしたけど、青空が多いほうが、火を起こしたりとか、自然体験という意味では、自然とつながれている感覚というのとはとてもありがたいなというふうに思っている。
- ◇次は、たき火をしたりですとかイベントをするときには、少なからず部材というか、いろんな用品がある。私、狭い場所に住んでいるが、子供たちのイベントのために、部屋の半分が倉庫代わりに埋まっていたりする。その中にたき火の道具などもあるが、ぜひ地域のために、年の数回でもそういった部材を置いておける場所。つまり、地域のために何かやりたいなと思っている人が共同で使える倉庫とか、何か準備のスペースのようなものがあるととてもありがたいなと思う。
- ◇あとは、今、たき火の燃え残った灰とか、念のため家に持って帰って一般ごみで捨てているという、なかなかしんどいことをしている。なので、出たイベントのごみとか、そういったものは、たき火のごみであれば、土に循環できるようなものだったらいいかもしれない。少なくとも、その場でごみを廃棄できるようなシステムというか、整備していただけるとうれしいなと思う。
- ◇先ほど申したが、本当に番町、千代田区、とてもポテンシャルの高い、意欲の高い、住民の方が多いので、そういった方々のやる気とか創造性とかを引き出せるような広場になっていただけるとすごくいいなと思っている。

【事務局より資料2-1について再度説明】

- ◇番町の森、また番町の庭では、地域の方にお集まりいただくことを目的とし、その他にも様々なイベントが企画されている。資料2-1には一覽でその内容を記載している。麴町歯科医師会によるキャンペーンや飲酒運転撲滅のキャンペーンなど普及啓発を目的としたものから、盆踊り大会に代表される地域コミュニティの核となるイベント、そのほかには花火やボール遊びの企画など、区立公園では原則として対応が難しいなか、民間が運営する場所だからこそ実施できるイベントが行われている。
- ◇下段には区が運営者に伺った内容をまとめており、地域の方が参加されるイベントのためベビーカーや自転車利用が多く、それらの置き場やスタッフ控室を考慮すると、現状の面積では手狭であり、実施できる内容にも制限があるとのこと。
- ◇次に、ご紹介も兼ねての報告となるが、先日、番町地域のことを地域の方々に語らうタウンミーティングが開催された。各委員にはお手元にチラシをお配りしている。
- ◇第1回目は参加者から「番町麴町にあるもの・ないもの、番町麴町の好きなところ、嫌いなところ」をテーマに自由な意見を出してもらい、治安が良い・教育環境が整っている・子どもが遊べる空間が少ない・道幅が狭い・電柱は無い方がよい・スーパーや銭湯が欲しい・コミュニティの活性化に向け新旧住民の課題があるといった声が寄せられたとのこと。今後、2回目以降の開催も予定されていると伺っている。ざっくばらんな雰囲気とのことなので、関心のある方はぜひご参加いただきたい。詳細はチラシに記載の主催者へお問い合わせいただきたい。
- ◇また、広場の活用方法としてイベント事例をこれまで紹介したが、地域に方にとっては平時における活用も重要であろうと認識している。憩いの場、子どもの遊び場といった機能が広場には求められるが、

ここでは園庭のような役割として番町の庭を利用している、地域の保育園に運営者がヒアリングした内容をお知らせする。

- ◇ヒアリング対象は、資料に記載の4つの保育園。まず番町の庭に関するご意見。子どもが走りまわれる、探索活動ができる外遊びの場として重宝されている。乳幼児にとって、園からの移動距離が短い点に言及されている。また、要望としては木陰や遊具、芝生、ベンチ、トイレがあると良いといったご意見が挙がっている。他の利用者への配慮や、利用者のけがに関する注意が必要だとするご意見がある。最後に番町の森についてのご意見。様々な要素を踏まえ、広場がこどもの未来、将来にとって必要なものであるとされている。

・日本テレビ通り沿道の街並み景観（低層部）について

【事務局より資料2-3について説明】

- ◇千代田区では景観まちづくり条例に基づいて、景観まちづくり計画が定められおり、この計画の中の「麹町地域の景観形成方針」を資料として掲載している。その中で「大きな敷地割から生まれるゆとりある街並みをつくる」などいくつかの方針が定められている。
- ◇次のページに記載しているのが、千代田区界限別・重点地区景観まちづくりガイドラインの麹町・番町境界の景観まちづくりの方向性を示す景観・方針図とキーワードを示した景観まちづくりの指針。次のページが景観形成マニュアルの中から一例として抜粋した間口の分節や高さの分節といった考え方を示したものの。
- ◇これらが景観に関する上位計画・関連資料となり、個別であっても大規模であっても建築計画の際に景観に関する協議を行っている。
- ◇次に日本テレビ沿道全体の街並みをイメージしていただくため、現状の建物立面のコラージュを作成した。さらに最後のページに沿道の建物写真の一部を掲載している。概ね2～3階レベルの低層部で商業機能が配置されているところが特徴として見られるところを例として掲載した。
- ◇改めてご確認いただいて、番町を中心とした日テレ通り沿道として守っていききたい街並みとはどんなものか、もしくは今後どのような街並みにしていきたいかなどについて、後ほどご意見をいただければと思う。
- ◇なお今後、本協議会において街並み景観に関する指針となるものを定めていければと思っている。本日、お手元にはその参考として「大神宮通り沿道まちなみガイドライン」をお配りしている。指針のイメージとしてご覧いただきたい。

■意見交換

（委員）

- ◇冒頭、委員さんから、都市計画マスタープランについては、地域の大方の賛同があれば逸脱しても構わないという発言が。いかにも今回の日本テレビの計画が都市マスに違反しているような印象を受けていると思うが、そんなことは全くない。
- ◇それについては、この前の都市計画審議会委員が、「千代田区には都市計画マスタープランを逸脱した再開発が13件ある。住宅地について、100m超の建物があるが、そのときの都市マスではそういう記述にはなっていなかった。でも、地域の多くの方の賛同があったので、都市計画マスタープランというのは弾力的、柔軟的に運用するものなので、それだったら逸脱しても構わない」そんな発言があったわけだと思う。今回の日本テレビの再開発につきましては、令和3年5月の千代田区の都市計画マスタープランでは、一番町から六番町のあたりの広大な住宅地につきましては、中高層の建築物を使って緑豊かな住環境を創造していくという内容ですが、日本テレビの再開発につきましては、日本テレビ通りという商業地でありまして、しかも、わずか1.5ha程度のものだ。
- ◇ここで重要なところは、交通結節点であるということ。だから、バリアフリーや歩きやすい歩道の確保とか広場の設置とかいうのが都市マスに明記されているので、何ら違反するものではない。
- ◇それから、地域の大方の賛同が必要とかおっしゃいましたけれども、都市計画法の16条、17条というの

は、地権者とか周りに住んでいる方の意見を聞きながら進めなさいという、それだけのことで、特に大方の賛同がなければいけないとかいうものではない。それは法律にきちんと書いてある。

- ◇二番町の場合、大方の賛成も大方の反対も、取るのは不可能だと思っている。というのは、二番町の地権者は、抵当権者含めて1,100人いるが、自分で二番町に住んでいて、なおかつ不動産を所有している人はたった180人しかいない。残りの800人から900人は不在地主なので、区からいくら書類が行っても、ほとんどそのまま無関心という人が大半。賛成についても、大方の賛同を得るのは不可能だし、反対についても、大方の反対を得るのは不可能な状態。だから、進め方としては、もちろん住民の意見を聞くことは必要でしょうけれども、有識者の方の意見を聞きながら再開発について進めていくのが本当だと思っている。
- ◇少し長くなったが、広場についてはピロティだとピロティ下がコンクリートになり空も見えないので、なるべく少なくした方が良くと思う。バリアフリーは絶対。階段で9mも上がらなきゃいけないなんて、そんな場所はおかしい。あと、交通広場も必要だと思っている。やっぱり5分10分歩くというのは、高齢者とか身障者の方で結構きつい人がある。タクシー乗り場とかがあるんだったら、屋根がついているので、待っていても非常に楽。意見としては以上。

(委員)

- ◇3月の都計審で、採決の延期と学識経験者での再度検討ということについては、生徒1,400名の保護者に報告したところ大変賢明な判断という形で、喜ばしく受け止められている。いわゆる文教地区で、8,000名の児童・生徒がいるわけなので、通学者、保護者の存在は重いんじゃないかと思う。
- ◇そして、改めて広場の問題がいろいろあった。後で言及するが、今回は都市計画マスタープランの中層高層の住宅地区と文教地区の規定、地区計画の60mの高さの制限を緩和するのかわからないかが大きな問題。それはやっぱり広場を使う方々も認識する必要がある。つまり、それが地域貢献するんだという理由付けにいろんなものが使われている。使われているというか、民間の私有地を地域のために使えるのはいいと思う。しかし、それは2,500㎡が本当に必要かどうかというのが今問われている。
- ◇私は、ここまでくると、番町を守る会が容積率を増加しながら高さを抑える案を一回出されたが、そのことについては、ここまできたら調整になってもいいと思う。しかし、60mの高さを堅持すべきだと思う。
- ◇高さ制限が緩和されることによって、他の番町地域、四番町または五番町、他地域においても、マスタープランが中高層であり、地区計画は60mと決めているのに、しかし例外が出てくる。それが次々と慣例になっていくということでは、建築行政に大きな禍根を残すことになるのではないかと思う。
- ◇そういうことが、地域全体で就労人口が増え、飲食業が増加し、繁華街化が起こるのではないかということも、事の行く末を考えれば非常に重要だと思う。今回、六番町が40m、33m、60m、この高さ制限がしっかりと維持されたということには安堵している。
- ◇何度も申しますけれども、やはり地域貢献に疑問がある。広場については、最初、お祭り。これについては、歩行者天国にしてもいいということをお願いした。現在も考えると、四番町も日テレさんが買収して持っている。何も二番町だけで全ての広場を解決することはない。四番町も向き合っているわけで、四番町の開発が全く白紙となっているが、そこを用いることもできるし、日曜日にはその間の番町文人通りを歩行者天国にすることもできる。二番町で全てを賄って2,500㎡必要だと、これの意味が私はよくわからない。
- ◇今の子供広場も、過渡的な形で自由に使っている。それが今後、パースがありましたが、このような形で就労人口5,000~6,000人の1つのビルの下になる。それが今の状態と同じで使えるとは思わない。だから、非常にイメージ操作をされている。一概に商業的なエリアマネジメントなどを様々することは、悪いとは言えない。日常的にはキッチンカーが置かれ、数千人の就労者が緑のところを闊歩するのではないかと思う。それで本当に子供広場と言えるのかということ。
- ◇私は若い頃、世田谷の羽根木プレーパーク、羽根木公園のリーダーをした。もちろん、こういう企業の広場も使えるんですけども、ああいう公園を用いてたき火をしたり、いくらでも活動する。だから、この日テレさんの2,500㎡が必要で、そこでその事業をしなければコミュニティとか子供のためにならないと決めつけるには問題があるのではないかと思っている。
- ◇防災広場についてだが、この地域は、延焼防火区域で、帰宅抑制地域で、みんなが備蓄とかを求められ

ている。そういう中で、本当に区の防災計画で2,500㎡の防災広場が必須とされているのか。

- ◇私どもは、マンホールトイレを持っている。これを使うのが、1,000名を超えとなかなか難しい。だから、今町会でも持っていると思うが、何千という簡易トイレを主流に使うようになっていく。町会もそうだと思う。だから、そういうことも考えると、これが本当に必要なのかなと思っている。
- ◇それから、バリアフリーだが、これも何度も言っているが、やはり賃貸オフィスの使用者のための動線としてエスカレーター、エレベーターを確保するのは当たり前じゃないか。それを無理やりこちらにバリアフリー化という理由でつけて押し付けているという気がする。また、3月には東京メトロが運賃を値上げした。その理由の一つが、駅のバリアフリー化ということ。もちろん、他のビルのところも使うので、難しい問題もあるかもしれないが、狭い中でも1人分のエスカレーターをつけるというのはできるかもしれない。本当に東京メトロとも交渉したのか、そういう交渉も必要ではないかと思う。
- ◇地域貢献と高さの緩和を結びつけるというのは飛躍があって、当初からの計画を見ても、あまりに付度と、無理やりに地域コミュニティの行事を結びつけている感じが私はずると思っっている。

(委員)

- ◇今、お話いろいろあったけれども、もういい加減、物理的な話はよしたほうがいいのではないかと思う。高さあるいは広さ、その他も含めて。町にとって、町の人にとって使い勝手がいいのかという論点にしたい。それが、どうもこの協議会、今までずっと参加してきたけれども、そういう論点が全然なくて、ひたすら物理的な話ばかりしている。
- ◇今回は広場の話ということで、都会においては広場というものは非常に貴重だ。場所がない、つまり、何かイベントをやろうと思っても場所がないというのが致命的なこと。それを今回、番町の庭から番町の森にかけて、ああいっただ場所を提供していただいて、いろんなイベントが今お話し、御紹介いただいたものが実施されている。つまり、こういうことが、今までやりたいと思っけていてもやれなかったものが、こういう場所ができたことによって実現する。
- ◇この近辺、保育園が非常に多いけれども、先ほども御紹介があったように数多くの子供たちがいる。現実にはこの近くにある保育園は園庭がほとんどない、つまり、外へ連れていかなくてははいけない。そういう場所としては非常に優良になってきている。つまり、これがなかったら、保育園の子供たちは本当に狭いところで過ごさなくちゃいけない。そのことは、やっぱりここに住んでいる人たちがどんな有用であるかということを考えていただければと思う。
- ◇バリアフリーに関しても、私も高齢なので、あの階段は非常に大変。何段あるかご存じか。出口まで61段。8月までは有楽町から来る出口が、エスカレーターが修理ということで、階段を上がらなくちゃいけない。それが58段。両方合わせると約120段。120段ということは、普通のマンション10階まで。それを通勤の方は毎日やっている。運動としては非常に有用かもしれないが、我々高齢者にとっては非常につらいので、とにかく有用なものをつくっていただきたい。
- ◇今回、広場のお話で、資料2にある新設広場ということで、これも多分ピロティを今度作られるということで。これは容積率の問題でやむを得ずつくられたんだと思う。考えてみると、こういうピロティがある、つまり屋根があるところは、雨が降ったら逃げるところがあるという面では、けがの功名と言っては失礼だが、ピロティはたまたま縁側エリアになっているという、非常に有効なことだと思っ。
- ◇そういう面では、とにかく広場ににしても、日本テレビさんがこういった形で提供してくれる。これをつくっても、広場を作りっぱなしではなくて、それに対してまた事務局的なエリアマネジメントも含めて実行していただく距離感もまたいいのではないかと思っっている。

(委員)

- ◇日本テレビさんの計画内容を確認して、バリアフリー、歩道の拡幅、広場は、過去10年間ずっと町会を主体とした人たちの願いをかなえていただけたということ、私は大変ありがたいことだと思っっている。
- ◇座長から、広場についてここの出席している者は主要利用者じゃないというお話があったが、小学校の2年生の孫は、週末は友達と待ち合わせて番町の森で本当に元気に走り回っている。4歳の孫は二番町の保育園に通っている。これは民営の保育園だからいわゆる外の庭がないので、番町の森で雨でなければあの周りのほとんどの保育園はあそこでお子様が遊んでいる。通勤の途中に見ると、最近非常に保育園が増えて、一方でそういうスペース的なものがないので、ああいっただ広場の価値がものすごく高い。

◇今後、30年、50年、長いスパンを考えると、今回の日本テレビの再開発の機会にバリアフリーを実現し、なおかつ、子供のよい空間を実現し、それなりの広さのスペース、庭ができれば、実際に住んで、生活している者にとって、生活の価値が上がる。この地域の価値が向上すると思う。日本テレビの計画をぜひ実現していただきたい。

(委員)

- ◇今日もいろいろ御発表を伺って、関係者の方々がいろいろ努力をされて、かなりいい案にまとまってきているなという感じを受けている。特に日テレさんは社会貢献意識を非常にお持ちの企業だということ、本件が始まるよりずっと前から認識している。源流である読売さんもそう。ですから、関係の方々の努力にまずもって敬意を表したい。その上で、今年の1月の公聴会から、三方一両損の解決策を何とかみんなで見えてきたらどうかということを経験でも述べた。
- ◇住民の皆さんの全ての方が意見書を出すということはなかなか難しいわけですから、どうしても比較的少ない割合の方々の意見書しか集まらないが、3月の都計審で会長が採決をしないで、本日採決するかどうかの採決をしようという提案をなす背景は、住民に関する限りはですね、高さ制限を超えるものは反対だという意見が7割ぐらいあった。住民以外の方々では、どういうわけか9割ぐらいの方が賛成だった。それを受けて、住民の意見は無視できないだろうという会長の御判断で、採決をするかしないかの採決になって、その結果、採決をするのは適当でないだろうという結論になったと理解している。
- ◇ごく一部の人はしか意見を出さないんだから、それはあまり問題にならないんだというお考えもあるかもしれないが、少なくとも都計審の会長は、住民の提出された意見の中の割合を非常に重視したということだと思う。
- ◇委員さんからもあったが、二番町街区だけで2,500㎡がどうしても必要なかどうかということをやはりよく御検討いただきたい。番町の庭がちょうどいい広さだという意見もあるから、二番町内だけで2,500㎡が本当に必要かどうかということについてももうちょっとお考えいただきたい。
- ◇ピロティに対してあまり評価をしていないような御意見が出たが、ピロティがコンクリートに決まったわけでもないで、例えば人工芝にすることもできる。前に日テレさんがお出しになった絵ではマンホールトイレが外の広場に並んでいる、給水車も外の広場で給水活動している。最近では、線状降水帯とか集中豪雨とかいうものがたくさんあるので、ピロティの中にマンホールトイレを設けていただくというのは、一旦災害が起きたときには有用だろうと思う。
- ◇番町地域の住民だけでなく、昼間人口も加えたら、マンホールトイレを幾つか設置したぐらいで根本的な解決はできないので、やっぱり町会でいろいろ御努力いただいているように、それぞれの家で、それぞれの所帯で3日分ぐらいの食料、飲料水、簡易トイレといったものを備蓄して災害に備える、これが基本ではないかと思う。
- ◇いずれにしても、みんなが納得できるような方向に、建設的な話し合いをすることを切に願う。

(委員)

- ◇率直に思うことは、早くしてくれと。バリアフリーにしても、駐車場になっている土地にしても、地域としては非常に残念に思っている。特にバリアフリー、エスカレーター、エレベーターに関しては、30年ぐらい前からいろんなところにつくることをいろんなところで検討したが、面積が取れなかったり、資金の面だったり、いろんなことが重なって今日現在まで実現しなかったというのが現状。
- ◇そこで、日本テレビさんが今度の新しいビルをつくるということになり、このチャンスを絶対逃してはいけない。
- ◇広場について、4年ぶりに日本テレビ通りの盆踊りを行って2日間で8,000人。多分、今までの中で一番お客様がいらっしやっていた。番町の庭で開催された。昔南館の駐車場でやっていたが、2日間で8,000人という方が来て、今回少し広いところだったけれども、これぐらいでは全然足りない、もうちょっと広いほうがいいと思った。
- ◇民生委員をやっている関係で、番町、麴町にお住まいの方が、大体1万8,000人の中で、65歳以上の方が3,400人ぐらいいらっしゃる。そして、体に障がいをお持ちの方が450人ぐらい。これが番町、麴町の人口の21.8%。20%以上、5人に1人が何らかの交通に苦慮されていると思う。体の不自由な方、お年寄りの方がタクシーにのるときに、すぐに行動ができず普通の方よりもちょっと時間がかかったり、なか

なか苦勞しながら乗車される。特にまたゆっくりなので、交通渋滞を引き起こしてしまったりとか、雨とか風とかがすごい日に外で傘をしまってそれで乗り込むのは結構危険も伴う。ぜひバリアフリーと交通広場ができればいいなど。

- ◇二番町だけでも、アスク二番町保育園、ちとせ保育園の2つが二番町町内にある。高齢者施設、一番町特別養護老人ホーム、いきいきプラザもある。そういう方にも優しい番町、もっともっと優しい、そういう町になってほしい。
- ◇今回の日本テレビさんの新しいビルを建てるということでチャンスである。ぜひしっかりやっていただきたい。

(委員)

- ◇ここでは地域密着型イベントというものが需要だというお話、防災・災害のために必要な広場、もともと閑静な住宅なおかつ文教地区でもあること、町のたたずまいとして高さは60mだろうという意見とかいうことがあった。
- ◇皆様がお出しになられた意見というのは、1人1人の個人の意見と認識しているが、やはりこの場だけではなくて、住民に対して広く意見を募ることが大変重要なことだと思う。そのために必要な、判断するための情報提示の材料というものが、今回のこのような場では足りないのではないと思う。
- ◇例えば、地域に必要なイベントをやりましょうということは大いに結構なことだが、同時に、その土地は日テレさんの私有地。この人たちが、日テレさんが自社の目的のためのイベントを開くことは容認していいのかいけないのかということ、そもそもこちらが口を出す筋合いの話ではない。では、そのようなことが起きたらどうなるのか。町でそういった制限をかけるべきか否か、応じていただけるのかどうかという話。
- ◇広場というものについても、ピロティがあるかないかという話がございましたが、これを地域のイベントと考えれば、広いほうがいいかもしれませんが、災害対策用と考えれば、ちゃんと屋根があって、雨風がしのげるような場所があるということが必要。
- ◇このように、あちらを立てればこちらが立たないというのが世の常だと思っております。区役所様も行政としてのご都合、日テレさんも私企業としての利益追求、例えばバリアフリーの話につきましても、バリアフリー化をすることが私企業の利益になるのではないかという意見もあれば、バリアフリーをすることが何を優先しても地域でやってほしいという意見もある。これはそれぞれ価値観が違う。住民は住民で、自分たちの暮らしが最優先です。当然住民のエゴ、企業のエゴ、区役所のエゴがあると思う。
- ◇何をよしとするのかということについて判断するため、住民の皆様にもきちんと意見を募ることが必要だと思っている。都計審では、7月に会長がいみじくも高さ80mは所与ではないとまで明言し、それが議事録にも残っているにもかかわらず、今回御提示いただいた案の中には高さを60mにした形として、それで何とかそれぞれ高い、それぞれのニーズについて折衷するような案をつくるという手がなかったことについて、少なからず驚きを禁じることができない。
- ◇このようなことを全部やった上で、高さ60mをどうするか、広場の面積については本当にこれで適切なのか、一体何を求めているのか。その結果として、例えばこの選択をしたら何を得て、この選択をすれば何を失うのかといった情報の開示がそもそも今までのところでなかったと思う。協議会の早い段階では、番町の町に賑わいは要らないという意見もあったような気がするが、地域貢献のために必要なイベントも当然必要だと思っている。
- ◇このような話をきちっと住民に対して、得るものは何で、失うものは何。それに対する制約は何であって、その制約に対してどういうことをすることが望ましいのか。このようなことを情報開示の上で住民の皆様にもきちんと意見を募って、その結果をつまびらかにして議論するのが大事だと思っている。

(副座長)

- ◇我々は、60mという高さを絶対死守すべきだとは考えていない。しかし、現在の地区計画を変えるためには合理性が必要であるということを一昨年の秋口から、日テレさんとか千代田区さんとの協議においてその説明をずっと求めてたが、一向になされず、去年、突然16条17条の手続きが行われた。都計審では採決するのを延期しようということになったが、専門家会議というものが開かれて、2,500㎡、700%というものが既定の事実になっている。私は、千代田区のホームページを見て、専門家会議の3回にわた

る審議の議事録を見たんですけれども、項目があるだけで、ほとんど内容がわからない。オブザーバーもいなかったんで、千代田区さんには専門家会議でどういうことが話されたかというのを、合理性をもって御説明いただきたい。

◇座長もおっしゃったが、今回の地区計画の変更が四番町や五番町にどういう影響を与えるかということとを全く審議していない。六番町の偶数番地と五番町の状況についてはわかったが、今回の地区計画の変更が全体的にどういう影響をもたらすかをしっかり整理して欲しい。

(副座長)

◇副座長という立場で発表しないとイケないですけれども、事あるごとに日本テレビさんの再開発のことを集中的に審議しているわけですが、本来は日本テレビ通りの沿道のまちづくりに対する協議会であって、一企業のことをとやかく言い出して、そこに終始しているということが私は非常に不快。

◇逆に、日本テレビさんがバリアフリーとか街区公園に相当する広場を整備するとか地域防災の取組を一生懸命するとか、一企業さんが地域にこれだけ貢献しようとお考えになっていただいて、地域のために何かしようということとを一生懸命、皆さんの御意見をいろいろいただきながら、都計審で言われたことに対して素直に従い、いろいろな形で何かできないか、地域貢献を失わないようにしようということとで一生懸命努力していただいている。それに対して一々とやかく、がんがん言うのは、私は非常に不快。

◇日本テレビ通りの沿道のまちづくりに対する協議会で、将来的には大神宮沿道町並みガイドラインみたいなものを本来はつくりたい。本当はこういうものをつくるためにこの協議会があるんだと思う。だから、沿道にいる町会長が皆さんここに御出席されている。この原点を忘れないでいただきたい。

(加島まちづくり担当部長)

◇本日、日本テレビさんから提案が出たところ。都市計画審議会というお話も出ているので、専門家会議の中でも、やはり地区計画の変更を見据えてという形になってきているということは事実かなと思う。

◇いろいろ意見をいただいたので、そういった意味を含めて、二番町の地区計画の変更に対する検討をさらに深めていきたい。

◇日本テレビさんの計画は多少出ましたが、詳細な設計は地区計画の変更が進まないと出てこない。本日の広場にしても、バリアフリーにしても、今日は議論にならなかった沿道の低層部の設えといったところについては、まだまだこれからという形なので、そういった意見を言える場として本協議会を思っている。日本テレビさんの説明もそういった御説明があったかなと思う。詳細についてはいろいろと御意見をいただけると思う。

◇先ほど番町のタウンミーティングというチラシの説明があった。これに関して日本テレビさんの意見だけじゃなくて、番町に関わる町をどういうふうにしたらいいということで素直にいろいろ意見を語らうというところなので、非常に興味深いところがあると思っている。地域の方々が本当にここの番町地区全体に対してどういう町がいいよねということとを踏まえると、そういったものに関して我々として、副座長からは区がもうちょっとしっかりして基本構想を早くちゃんとしてくれということとを思う。そういったところの基本構想につながるような御意見をここで得られるんではないかなということも期待している。

◇今後、この協議会に関しては、日本テレビさんの話だけではなくて、沿道のまちづくり、沿道の整備だとか、そういったものをどうしていこうかということで、皆様にまだまだ協力いただきたい。

(座長)

◇かなり延びてしまったんですけれども、皆様方から忌憚のない御意見をいただいて、これから、今後の参考になっていくと思う。

以上